



(¥4,000)

実用新案登録願

昭和55年9月22日

特許庁長官 島田 春樹 殿



1. 考案の名称

つかいすておむつ

2. 考案者

ワカヤマシトサマチ  
和歌山市土佐町1丁目44番地

川 人 四 郎

(外2名)

3. 実用新案登録出願人

東京都中央区日本橋茅場町一丁目一番地

(091)花王石鹼株式会社

代表者 丸 田 芳 郎

4. 代理人

東京都中央区日本橋横山町1の3中井ビル

(6389)弁理士 古



審



59805

55 135096

方式  
審査



明 細 書

1 考案の名称

つかいすておむつ

2 実用新案登録請求の範囲

1. 本体とテープファスナーから成るつかいすておむつにおいて、テープファスナーが、その表面の一部に感圧接着剤が施こされ、表面が向き合うように剝離可能に折線を介して折り重ねられており、テープファスナーの裏面とおむつ本体が、前記折線がおむつ本体の長手方向の端縁を向く方向にホットメルトにより固着されていることを特徴とするつかいすておむつ
2. テープファスナーの表面の感圧接着剤が施こされていない部位には剝離剤が施こされている実用新案登録請求の範囲第1項記載のつかいすておむつ
3. テープファスナーの剝離剤が施こされている部位の裏面とおむつ本体が固着されている実用新案登録請求の範囲第2項記載のつかい



すておむつ

### 3. 考案の詳細な説明

本考案はつかいすておむつに関し、詳しくは幼児に固定するためのテープフアスナーを改良したつかいすておむつに関する。

感圧接着テープ（以下粘着テープという）を用いたおむつのフアスナーは近年非常に普及し多数のフアスナーの構造が提案されている。その一例は特開昭50-109041号公報に開示されているZ字形テープに代表される粘着片面テープであり、感圧接着剤（以下粘着剤という）を施された第1面と粘着剤が施されていない第2面とを有し、第1面の一部はおむつの端縁近くの裏面シート（例えばポリエチレンシート）に固着されている。第1面の他の部分はおむつを幼児に固定する時におむつの他の部分に付着させるためのもので、使用されるまでの間は一般には剝離シートをその上に付着させて粘着剤層を保護している。

この粘着片面テープの欠点の一つはフアスナ

ーに及ぼされる力がすべてファスナーとおむつの裏面シートとの間の単一の連結点に向けられるために、このような力が長時間かかるとテープと裏面シートが外れ、ファスナーとしての機能をはたし得なくなることである。又、テープを裏面シートから引剝がすような方向に力がかかると容易に剝離してしまうことがある。この欠点の主なる原因は、裏面シートに固定する粘着剤には一般に耐クリープ性に限界があるからである。他の一例は特開昭50-72748号公報に開示されているYテープと呼ばれるもので、これは各々粘着剤を施された第1面と粘着剤を施されていない第2面とを有する2つのテープ片からなり、この2つのテープ片はそれぞれおむつの上面と裏面に粘着剤で固定されており片方のテープ片の第1面の一部は他方のテープ片の第1面の一部に粘着剤どうしで固定され、他方のテープ片の第1面の他の一部は、上記の片方のテープ片の第2面に引剝し可能に付着されたような構造を有するものであり、おむつを



幼児に固定する時上記の他方のテープ片の上記の他の一部を上記片方のテープ片の第2面から引剥して、おむつの他の部分に付着することが出来る。故にフアスナーに及ぼされる力が二つのテープの粘着剤どうしの接合面を通しておむつの上面と裏面のテープ固定部に分散して伝達されるから、粘着片面テープのようにテープと裏面シートが外れるという事故は少なくなる。しかしフアスナーに及ぼされる力は粘着剤どうしの接合面では互いのテープを剥がす方向にも働くため粘着剤の性能が悪かったり、粘着剤どうしの接合面積が少なすぎる場合には、この接合部分で剥がれる事がある。こうなればフアスナーに及ぼされる力により容易に裏面シートが破れて、フアスナーとしての機能をはたせなくなる事もある。又、Yテープは二つのテープ片で一つのフアスナーとなる故に両方のテープのズレによる製品のロス率が多い事も欠点の一つにあげられる。当然このような両方のテープのズレによる事故は、一つのテープしか用いない

粘着片面テープでは起こり得ない事故である。

本考案者らはかかるテープフアスナーの欠点を改良し、より使いやすいフアスナーを得るべく鋭意研究の結果、本考案に到達した。

即ち、本考案は本体とテープフアスナーから成るつかいすておむつにおいて、テープフアスナーが、その表面の一部に感圧接着剤が施こされ、表面が向き合うように剝離可能に折線を介して折り重ねられており、テープフアスナーの裏面とおむつ本体が、前記折線がおむつ本体の長手方向の端縁を向く方向にホットメルトにより固着されていることを特徴とするつかいすておむつを提供するものである。

本考案によれば従来の粘着片面テープの欠点であるテープとおむつ本体との固定に、耐クリープ性の強いホットメルト接着剤を用いたためにテープフアスナーとおむつ本体との結合が強固になり剝がれにくくなるという利点がある。さらに粘着片面テープの一種でありながら、使用時に廃棄せねばならない剝離シートを必要と



しないという利点も有する。


本考案のテープファスナーの表面の感圧接着剤が施されていない部位には剝離剤が施されていることが好ましく、剝離剤が施された部分の裏面とおむつ本体の内側表面とが固着されていることが好ましい。

本考案のつかいすておむつを幼児に固定する時は感圧接着剤面を剝離剤面より引剝し、おむつの他の部分に付着することができる。

以下本考案の実施例を図面により詳細に説明する。

第1図にテープファスナーを固定したつかいすておむつの断面図を示し、第2図にはテープファスナーを延伸した状態の断面図を示す。

つかいすておむつ本体の構成は、本考案において本質的なことではないけれど、一般には綿状パルプ等からなる吸水部1の肌に当接する側を水浸透性の不織布からなる表面シート2で覆い、その裏面を水不浸透性のポリエチレンからなる裏面シート3で覆っている。表面シート2



と裏面シート 3 はつかいすておむつ本体の巾方向の端縁付近で接着剤やヒートシール等により固着され、シール線 4 を形成している。

テープフアスナーはこのつかいすておむつ本体の上部巾方向両端に固定される。テープフアスナー 9 は表面をなす第 1 の面及び裏面をなす第 2 の面を有する支持体 6 からなる。支持体 6 の第 1 の面は 2 つの部分に分かれており、1 つの部分には粘着剤が塗布されて粘着剤面 7 を形成し、他の 1 つの部分にはシリコーン等の剝離剤が塗布されて剝離処理面 8 を形成している。粘着剤面 7 は剝離処理面 8 の上に剝離可能に折重ねられる。このようにして組み立てられたテープフアスナー 9 の剝離処理面 8 の裏側の第 2 の面をつかいすておむつ本体の表面端部にホットメルト接着剤 5 で固定する。この際、テープフアスナー 9 の折目 10 がつかいすておむつの端縁を向くようにして固定する必要がある。

本考案のつかいすておむつは上記のように構成されているので、使用に際しては第 2 図に示





すように粘着剤面 7 を剝離処理面 8 より引き離し、粘着剤面 7 を露出させ、つかいすておむつを装着後、つかいすておむつの他端に、露出した粘着剤面 7 を固定する。従がつて、使用時には廃棄せねばならない剝離シートを必要としないし、耐クリープ性の強いホットメルトでテープファスナーとつかいすておむつ本体が固定されているので、使用に際してテープファスナーを引張つてもテープファスナーとつかいすておむつ本体が分離することはない。更に製造時においても、クリープ性の強い他の固定方法であるコールドグルーや縫着に比して作業性が良い。


以上詳述したごとく本考案は有益なるつかいすておむつを提供するものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案のつかいすておむつの一実施例を示す断面図であり、第 2 図は第 1 図のテープファスナーを延伸した状態の断面図である。

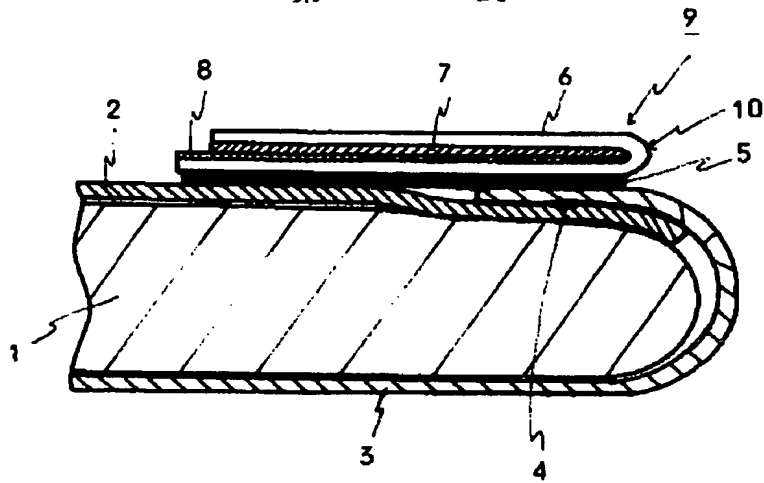
1 … 吸水部

2 … 表面シート

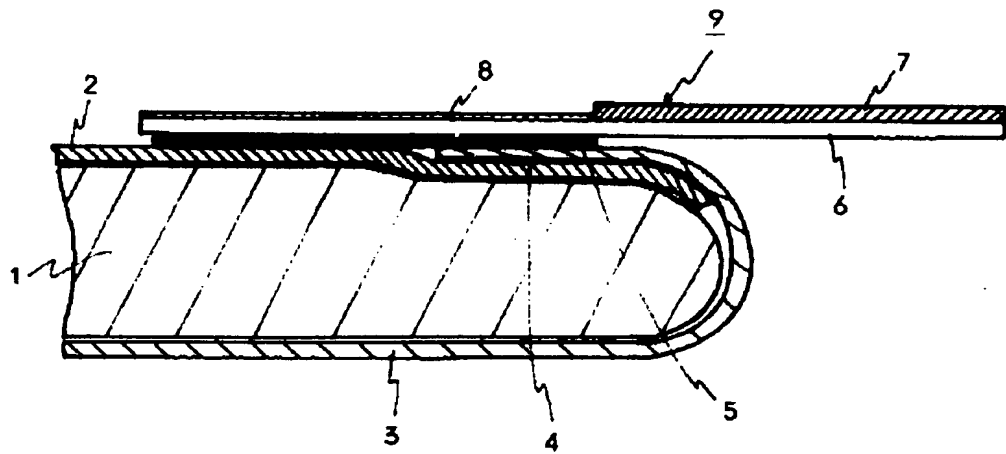
- 
- 3 … 裏面シート
  - 4 … シール線
  - 5 … ホットメルト接着剤
  - 6 … 支持体
  - 7 … 粘着剤面
  - 8 … 剝離処理面
  - 9 … テープフアスナー

出願人代理人 古 谷 馨

第 1 図



第 2 図



59805

出願人代理人 占 谷 馨

5. 添附書類の目録

(1)	明細書	1	通
(2)	図面	1	通
(3)	委任状	1	通
(4)	願書副本	1	通

6. 前記以外の考案者

千葉県<sup>フナバシシマルヤマ</sup>船橋市丸山 4-7-11

西<sup>ニシ</sup>沢<sup>ザワ</sup>一<sup>カズ</sup>徳<sup>ノリ</sup>

栃木県<sup>ハガクニイテカイマナオオアザカニシ</sup>芳賀郡市貝町大字赤羽 2606の6

伊<sup>イ</sup>藤<sup>トウ</sup>理<sup>オサム</sup>